

2022年二宮ゼミの研修旅行では愛知県を訪問しました。二泊三日の研修旅行では、メンバーの興味関心をもとに、名古屋城や常滑、徳川美術館などを訪れ、名古屋モスクでは渉外を担当されている方にムスリムの生活についてお話を伺いました。普段学んでいる教室から一歩外に出て実際にその土地で体感することにより、文献だけではわからない雰囲気を存分に味わうと共に、フィールドワークの重要性を実感しました。ここでは、名古屋モスク、常滑、熱田神宮をピックアップしてご紹介します。

### 【名古屋モスク】



1998年に開所。

名古屋のムスリムたちの心の拠り所。代表者の奥様に日本におけるムスリムの葬送、名古屋モスクの歴史についてお話を伺った。

皆に訪れる人生の終わり。

日本だからこそ起きる問題など、興味深いお話を伺うことができた。

写真は日没後の礼拝（マグリブ）



様々な書物。礼拝に訪れる方が持ってきてくれるのだそう。



礼拝の時間を示す電子時計。日の長さによって変わる

【常滑】 日本六古窯の一つである常滑焼を生産してきた常滑。  
この地には窯業で栄えた古くからの街並みがいまだに残る。



常滑系まねきねこの特徴を携えたシンボル、とこにゃん。  
高さ 3.8m、幅 6.3mの迫力は圧巻。

明治期の土管が土留めとして埋め込まれた「土管坂」  
不要になった陶器が活用された趣ある街並み



今も小さな窯元や作家が生活する。

大正時代に使われていた土管を焼くための巨大窯。  
両側面から炎を入れ、中に詰めた土管を焼く。  
内部壁面には釉薬の焼きついた独特な色が。  
石炭を燃料としたこの両面焚倒焰式角窯の出現で、  
人々は登り窯の重労働から解放された。



【熱田神宮】



日本武尊の妃、宮簀媛命が神剣を祀ったことから始まる。伊勢神宮に次ぐ格式高さで有名。現地では神宮にまつわる様々な伝説について知ることができる。

宝物庫併設の体験コーナー。  
真剣の重さを体験できる。

宝物庫では神事に用いられたお面など、古来から伝わる品々を見ることができる。中には平安から伝わるものもあり、神宮の歴史の深さと人々の信仰心の篤さを感じられる。



名古屋名物きしめん  
熱田神宮の中庭でいただいた。